

指導案の工夫

たとえば、国語科の2つの単元をつなげた学習を考えると、1つ目の単元で学んだことが次の単元で生かされるような学習を考えなければならない。また、2つの単元のそれぞれの目標が達成されるためには、単元の流れの中での目標を明確にしながらい進めていくことが大切である。それぞれの単元で付けさせたい力を明確にし、その力を付けるため適切な言語活動は何であるのかを見据えて準備し、指導と評価・支援に一貫性のある学習を組んでいかななくてはならない。

そのためには、単元計画が大切で、単元全体を見通した評価・支援を考えていく必要がある。そこで、本校では、☆目標にせまるための支援と★意欲を高めるための支援を単元計画の中に表記し、授業者が常に、本校の研究の二大柱である『目標』と『意欲』を意識して指導できるように取り組んでみた。

4. 単元計画及び評価計画（全8時間）

☆目標にせまるための支援 ★意欲を高めるための支援

【ゴール】・・・子どもに見せたいゴール

学習内容	つきたい力（評価の方法）	教師の支援
<p>第1次（5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かるたを作るために、冬の言葉集めをする。 ・かるたの文を書く。 ・文に合う絵を描く。 ・グループのかるたを仕上げる。 ・他のグループのかるたを使って楽しむ。 	<p>ふゆのことばをつかって、かるたやカレンダーを作ろう。【ゴール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ えと文があっているか。 ◎ ともだちのさくひんのかんそうがいえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・冬の言葉をワークシートに書くことができる。（観察） ・語や文の続き方に注意してかるたの文を書く。（ワークシート） ・絵と文の関連を考えてかるたを仕上げる。（かるたの作品） ・他のグループのかるたにも挑戦し感想を交流する。（観察） 	<ul style="list-style-type: none"> ☆グループごとに多くの言葉を書き、集める。 ★生活科で、お年寄りや保育園児との交流で使うことを知らせ、かるた作りの意欲を高める。 ☆グループ内で意見交流しながら作る。 ★他のグループへ感想を伝え、第2次への意欲につなげる。

目標と意欲を意識した単元計画の例「1年 あつまれ、ふゆのことば」

この☆目標にせまるための支援と★意欲を高めるための支援の2つの支援は、明確に分けられるものではないので、当初は、子ども達の指導にどれだけ生かすことができるか、不安であった。しかし、試行していく中から見えてきたことは、単元計画の中に表記することで、授業者が何のために支援するのが意識できるということだった。そのことは、子ども達の意欲を高め目標にせまらせるためには効果的だったと言える。